

■ 開設年度		■ 開講部局	
2021		共通教育	
■ 科目名			
稲盛哲学：稲盛研究の最高峰が伝授			
■ 英語科目名			
Inamori Philosophy			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
前期	集中	講義	2
■（28年度以降入学生）中分類		■（28年度以降入学生）小分類	
教養教育科目(教養活用科目)		統合Ⅰ（課題発見）	
■（27年度以前入学生）中分類		■（27年度以前入学生）小分類	
a. 実践・判断・精神力		2. 自己確立・他者理解を学ぶ	
■ 受講学部学科			
全学部			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
吉田健一		稲盛アカデミー	
■ 連絡先（TEL）		■ 連絡先（MAIL）	
099-285-3753		k5621643@kadai.jp	
■ オフィスアワー（授業時間外の対応）			
木曜日3限（予め連絡をお願いします）。			
■ 共同担当教員			
高巖、三矢裕、日置弘一郎			
■ アクティブ・ラーニング			
■ アクティブ・ラーニング（「その他」の内容）			
■ アクティブ・ラーニング（授業回数）			
■ 理念 重要視する教育目標			
5. 倫理 1) 社会生活の基盤となる倫理について、考えを述べられる			
■ 理念 教育目標			
7. 他者との協働 2) 他者と協力して課題の解決を図ることができる			
■ 理念 教育目標			
■ 理念 教育目標			
■ 授業概要（目的・内容・方法）			
令和3年度の授業は全て遠隔式（リアルタイム配信）で行います。			
授業目的：経営哲学、社会哲学としての稲盛哲学（稲盛フィロソフィ）のアカデミックな理解を図ることを目的とし、「社会生活の基盤となる倫理について考えを述べられる」ようになるための「思考力・判断力」及び「主体性・協働性」の拡大を目指す。			
授業内容：社会哲学，経営人類学，管理会計学の立場から，この分野における国内最高峰の研究者（稲盛アカデミー客員教授）による稲盛哲学理解に資する内容。			
授業方法：教科書及び担当教員が配布する資料による講義を行うとともに、ワークシート等を介した理解の深化を図る。			
■ 学習目標			
・ 稲盛哲学（稲盛フィロソフィ）について、社会哲学、経営人類学、管理会計学（「アメーバ経営論」）の立場から学術的に理解する。			
・ 稲盛哲学がなぜ人、組織、社会を動かすことができるのかについて自らの言葉で説明することができる。			
・ 稲盛哲学の学びと自らの倫理観の関係を知る。			
■ 授業計画・試験の有無（16回〔初修語は31回〕に分け、回数、授業内容、自学自習等）			
1. 社会哲学としての稲盛哲学(1)			

2. 社会哲学としての稲盛哲学(2)
3. 社会哲学としての稲盛哲学(3)
4. 社会哲学としての稲盛哲学(4)
5. 社会哲学としての稲盛哲学(5)
6. 社会哲学としての稲盛哲学(6)
7. 社会哲学としての稲盛哲学(7)
8. 経営人類学からみた稲盛哲学(1)
9. 経営人類学からみた稲盛哲学(2)
10. 経営人類学からみた稲盛哲学(3)
11. 稲盛経営哲学を構成する重要な要素
12. 「アメーバ経営」と稲盛哲学(1)
13. 「アメーバ経営」と稲盛哲学(2)
14. 「アメーバ経営」と稲盛哲学(3)
15. 稲盛哲学研究：その展望
16. 期末試験は行わない（指定期日までにレポート提出）

■授業外学習(予習・復習)

- ・予習：次回の授業に関わる資料に目を通し、疑問点などをまとめる。
(学習に関わる標準時間は約1.5時間分)
- ・復習：授業で学んだ内容や概念について振り返り、ワークシートにまとめる。
(学習に関わる標準時間は約2.5時間)

■受講要件

特になし。

■成績の評価基準

各担当教員ごとに示すテーマについてのレポートを提出して頂き、その総合点を担当教員の人数で割り平均を出して評価する（レポートの比率が10割）。

■教科書

本講義は複数の客員教授による講義であるため特定の教科書は使用しませんが、事前に各担当教員（客員教授）から講義責任者に届いた講義資料を公開します。講義はそれぞれの担当教員の資料によって進められます。

■参考書

女子高生と学ぶ稲盛哲学，高 巖著，日経BP社，2015年，
ISBN:9784822279417

活きる力，稲盛 和夫著，プレジデント社，2017年，
ISBN:9784833422444

■地域志向科目の区分（平成27年度入学生用）

■地域志向科目の区分（平成28年度以降入学生用）

■実務経験のある教員による実践的授業

該当しない。

■その他

特になし。